

倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会（第2回） 会議録
交通・移住・情報部会

- 1 開催日時 平成22年11月8日（月）13時55分～15時35分
- 2 開催場所 倉吉市役所議会会議室（本庁舎3階）
- 3 出席状況
 - （1）委員 出席者5名（福井_恒部会長・米田副部会長・山下委員・青木委員・福井_利委員）
 - （2）事務局 4名
- 4 目的 次に掲げる事項を協議、確認するために懇談会を開催したもの。
 - （1）中部定住自立圏の現状について
 - （2）圏域の課題と可能性について
 - （3）交通・移住・情報部会（第3回）のスケジュールの確認
- 5 次第
 - （1）開会
 - （2）挨拶
 - （3）報告事項 中部定住自立圏の現状について
 - （4）検討事項 圏域の課題と可能性について
「中部定住自立圏の現状を踏まえて、足りているもの、足りていないもの」
 - （5）その他
 - （6）閉会
- 6 資料 別添資料のとおり
- 7 結果 本日の会議の結果、次のとおり報告及び協議を行った。
 - （1）中部定住自立圏の現状について
中部定住自立圏の地勢、人口及び地域公共交通、移住・交流、広報等の各分野の現状を整理した資料に基づき、報告及び説明を行い、圏域の現状を確認し合った。
 - （2）圏域の課題と可能性について
圏域の現状を踏まえ、圏域の中で足りているもの（強み）、足りていないもの（弱み）を意見交換し、圏域の課題と可能性について検討した。
 - （3）交通・移住・情報部会（第3回）のスケジュールの確認
開催日程を協議した結果、次のとおり開催することとなった。
平成22年11月30日（火）14時～16時

8 会議内容（要旨） 以下のとおり

会議内容（要旨）

1 開会

○ 事務局

これから倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会の第2回部会として、交通・移住・情報部会を開会させていただきます。

2 挨拶

○ 福井_市部会長

今回で懇談会としては2回目ですが、交通・移住・情報部会では、初めての部会となります。今回、事務局が作成した資料に基づいて、しっかり現状を把握して、課題と可能性についての忌憚ない意見を出していただき、有意義な時間になりたいと思いますので、皆様の御協力をお願いいたします。

3 報告事項 中部定住自立圏の現状について

○ 事務局

本日の会議は、定住自立圏共生ビジョンに記載する圏域の概況を説明し、現状を御確認いただいた後、日頃感じられることも含めて、委員の皆様から圏域の強み、弱みについて御意見をいただこうと考えております。そして、いただいた御意見を踏まえて、次の第3回の懇談会（部会）で圏域の課題、可能性等を出していきたいと思っておりますので、色々な御意見をいただければと思います。

よろしく申し上げます。

○ 事務局（策定支援会社）

概況について説明させていただきます。

鳥取県には、中部定住自立圏と、中海圏域定住自立圏、鳥取・因幡定住自立圏の3つの定住自立圏があります。中海圏域は島根県との県境を跨いで定住自立圏を組んでおり、「県境型・複眼型」の定住自立圏と分けられます。鳥取・因幡圏域は、県庁所在地の鳥取市があり、「大規模中心市型」の定住自立圏と分けられます。中部圏域は、倉吉市を中心市とした「小規模中心市型」であり、コンパクトな圏域を目指すというタイプに分けられます。

中部定住自立圏の地勢ですが、北部を日本海沿岸、東部は県庁所在地である鳥取市、南部は岡山県、西部は山々に囲まれ、県の中央部に位置しております。また、圏域の総面積は約780平方キロメートルで、県内の約22%を占めるものとなっています。

気候につきましては日本海岸気候区に属し、気象は東京や岡山と比べると1.5度から1.0度低く、平均気温は比較的低い傾向にあります。

土地利用区分については、自然的土地利用と言われる山林・原野と農用地の面積を合わせ

ますと、圏域の約4分の3となっており、緑の豊かな土地となっています。地形・地理条件については、周囲を山麓に囲まれており、国道や県道沿いに市街地が形成されています。自然環境については、川・山・湖・砂丘など、水や緑などに恵まれた美しい環境となっており、圏域の大きな魅力となっています。

人口の推移については、昭和60年に圏域全体で約123,000人でしたが、それ以降につきましては、各市町で若干の微減・微増の推移はありますが、大きくとらえると減少傾向で推移していることが伺えます。

世帯数の経年変化では、平成2年から平成17年の国勢調査の数値で、圏域全体で世帯数が年々増加しています。しかし、世帯人員の経年変化で見ますと、1世帯における人員数は年々下がっており、核家族化の傾向が伺える状況です。

人口動態については、生まれた数と亡くなられた数で表される自然動態、転入数と転出数の数で表される社会動態の総和となりますが、この人口動態を平成17年から平成21年でみますと、各市町で多少のばらつきはありますが、基本的には減少傾向となっております。

人口流動について、平成12年と平成17年のそれぞれで、流入人口と流出人口、男女別、圏内別での数値を整理しましたが、基本的に流入人口が流出人口を上回っているのは、倉吉市のみとなっています。他の4町は流出人口が上回っており、要は通学や通勤等において、外に出られる方が多い傾向となっております。定住自立圏全体では、若干の流出数値が多くなっている状況です。

将来人口について、今後の人口推計を示しております。人口推計につきましてはコーホート変化率法で行っており、平成17年から平成22年の各市町の住民基本台帳の数値を用いて推計しています。また、5年間にどれだけの方が生き残っているかという生存率と引越し等の転入・転出がどれだけあったのかという移動率を加味して推計しています。その他、0歳児の赤ちゃんの人口については、出生に適合する年齢（25歳～34歳）の女性人口と毎年生まれている数の比率も推計値に加味しています。

表を見ますと、あくまで予測ですが、平成22年の約111,000人のところが、30年後の平成52年には67,000人になってくるだろうと推計されます。また、封鎖人口（転入・転出等による移動を加味しない推計人口）では、平成52年では85,000人となっています。今後、このままの人口推移で予測される場合は67,000人ですので、今後の定住で何らかの対策をとって移動を押さえることができた場合、約15,000人の人口を確保できる可能性がでてきます。

なお、こちらの人口推計値については、倉吉市の総合計画とも整合性を取りながら数値を調整する必要がありますので、その点を御留意ください。

続いて、本日の分野に関わりのある地域公共交通、移住・交流、広報の分野を説明します。

地域公共交通の状況につきましては、一般路線バス、ワンコインバス、コミュニティバスが整備・運行されている状況で、他にもNPO法人による有償運送や乗り合いタクシーがあり、それぞれのコミュニティに合った形で運行・運営等がなされている状況です。JRにつきましても、三朝町のみ鉄道に関する交通体系がない状況ですが、その他の各市町にはJR各駅が整備されています。

また、地域公共交通の協議会で実施された住民アンケートの結果を見ますと、普段の移動手段として何らかの公共交通を使われている割合は、全体の2割から4割程度となっていま

す。どちらかというとし町によって差がありますが、基本は自転車や自動車を使われる割合が多いことが伺えます。

移住・交流の分野になります。空き家バンクの取り組みをまとめさせていただいております。倉吉市、琴浦町、北栄町では、空き屋バンクを実施されていて、比較的登録数も多くなっています。また、資料編には住宅整備の状況として、持ち家や借家という部分を整理していますが、受け皿としては確保できている状況ではないかと思っております。

広報について、基本的には、各市町でのホームページや広報誌による広報媒体によって情報が発信されています。倉吉市では、インターネットでのメール配信サービスをはじめ、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）など、インターネットを介したような形での双方向の情報通信が整備されています。あとは、倉吉市と三朝町において、ケーブルテレビを活用したL字情報サービスが実施されております。なお、ケーブルテレビの加入率は、倉吉市だけが6割程度でありますが、他の4町では7割から9割と高い加入率となっています。

その他、人材の項目として、ボランティア、NPO等の団体数の統計を示しております。分野別で見ますと、保健・医療・福祉、まちづくり、環境保全、子どもの健全育成というような分野における活動団体が多くなっています。

続いて、世論調査のデータを説明します。都市と農山漁村の共生・対流に関する世論調査の資料ということで、平成17年に農林水産省が全国の3,000名の20歳以上の方を対象にアンケートを実施してございました。前回の懇談会で都市部から田舎へ移住したいニーズがどれくらいあるのかという委員の御意見がありましたので、これに類するような資料ということで紹介させていただきます。

Q10を見ますと、「(都市部に住む方への設問)あなたは農山漁村地域に定住してみたいという願望がありますか」という設問ですが、「(願望が)ある」「どちらかというところある」の割合を合計すると1～2割の回答となっています。次のSQ(枝葉設問)を見ますと、先ほどのQ10で「ある」と「どちらかというところある」と回答した方に、「農山漁村地域に定住する願望を実現するためにはどのようなことが必要ですか」という設問で、この回答で4割を超えて高くなっている項目は、「居住地の決定に必要な情報全般が入手できること(41.3%)」、「農山漁村地域の居住に必要な家屋、土地が安く入手できること(43.3%)」、「医療機関(施設)の整備(43.8%)」となっています。

一方、Q15「(農山漁村に住んでいる方への設問)都市住民が農山漁村地域に定住するための問題点は何だと思いますか」という設問で、最も割合が高いのは「都市住民が定住するための仕事がない(54.0%)」、「都市住民を受け入れるサポート体制が整備されていない(30.9%)」となっています。

いわゆる都市に住んでいる方が描いているニーズは、情報と住居、医療の項目が高く、農山漁村に住んでいる方は、やはり仕事・職が問題であるとなっており、このような意識差も傾向としてあったので、御紹介させていただきました。

以上で説明を終わります。

○ 福井_市部会長

こちらの世論調査ですが、平成17年の5年前の資料になっていますが、最近の動向はどのようなになっていますか。

○ 事務局（策定支援会社）

最近の調査・文献として、事務局で把握できたものがこちらの平成 17 年の資料になります。これ以降のニーズ等の把握はできていませんが、おそらく劇的に傾向が変わっているということはないのではないかと推測します。

○ 事務局

倉吉市の中で総合政策室が移住・定住に関する窓口をしていますが、圏域外から居住のための家を求める声が多くなっています。最近では、鹿児島や京都から空き家バンクの問い合わせがありました。先程の世論調査の資料で、定住する願望を実現させるのに必要なものといった設問で、40%を超えている項目の中に「移住地の決定に必要な情報全般を入手できること」「農山漁村地域の居住に必要な家屋、土地を安く購入できること」と挙がっていたと思いますが、現在も同様のニーズがあるのではないかと業務を進める中で感じています。

○ 福井_市 部会長

関連で質問させてもらいますが、市が行っている空き家バンクは、どのような手段で広報されているのですか。

○ 事務局

圏域外に発信するため、基本的にはホームページで提供しています。問い合わせは、市役所に直接電話される場合もありますし、市営住宅の担当課に来られた際に空き屋バンクを紹介し、それを受けて総合政策室に来られる人がいます。

4 検討事項 圏域の課題と可能性について

○ 事務局

これから地域公共交通、移住・交流、情報という 3 つの分野について、それぞれ現状の中で足りているもの、足りていないものと感じておられる部分を伺わせていただきたいと思います。

また、現状資料の中で、不足している部分や皆様方が知っておられる数値等があれば、御意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願いします。

（主な意見：詳細は、別添の会議のまとめ資料のとおり）

○ 地域公共交通

バス、JR 等については一定の交通網が揃っており、NPO での有償運送や乗り合いタクシー等があって、便利である反面、バス交通の有効的な利活用ができていない、高齢者の通院・移動手段等の不足、地域高規格道路の早期整備といった面が課題として意見があった。

○ 移住・交流

実例として、空き家を上手く活用した例や上手くいかなかった例があること、また、移住に関する受け入れ体制の整備が不足していること、住むだけではなく職も不足しているといった課題に対する意見があった。そのような中、現状では移住に関する問い合わせの声も増えてきている状況にあり、今後は大学機関やNPOとの連携、農業体験による交流の取り組みを進めてほしいという意見があった。

○ 情報

「中部は一つ」と言われる中、同一の生活圏の中で入手できる情報が別々という情報の壁があるという意見があった。今後は、ケーブルテレビの情報も一つにしていければ、心理的バリアもなくなり、より中部がまとまることができるのではないかと、また、そのような情報のインフラ整備によって、医療や交通等の分野での利便性の向上にも繋がっていくのではないかと、といった意見があった。

5 その他

○ 事務局

最後に第3回の日程調整をお願いします。

(第3回の開催日程を平成22年11月30日(火)14時～16時に決定した。)

6 閉会

○ 事務局

これで第2回部会を終了したいと思います。

本日は大変お忙しい中ありがとうございました。

(資料)

交通・移住・情報部会（第2回）の会議のまとめについて【暫定版】

